

詩情流れる母なる大運河 水辺の風景、深い歴史を湛えた町々

2500年以上の長きにわたり、中国大陸沿岸部の南北を貫く大動脈として人々の生活を支えてきた京杭大運河。世界で一番古く長いと言われる人工運河の総延長は20000キロ近くに及び、その規模と圧倒的な存在感は、万里の長城と並んで中国民族の文化を象徴するものとなっています。流域周辺には、数多くの名所旧跡や人文景観が残されており、観光資源としてもその魅力は尽きることがありません。

流域にとどめる悠久の歴史

北京・天津・河北・河南・山東・安徽・江蘇・浙江の2市6省を流れる「大運河」ですが、観光面でのハイライトとしては、「大運河」と地域の風土が多く、魅力的な独特の古鎮を生み出してきた江南水郷が注目されるどころです。

縦横に流れる運河の両岸に



人々の暮らしを支えてきた「大運河」の存在感を印象づける運搬船(淮安)



首都・北京と浙江省の省都・杭州を結んで南北に約1800キロを貫く「京杭大運河」

広がる絵画や詩歌のような雰囲気醸し出す風景は、古来から多くのの人々を魅了してきました。日本でも、1940年代から歌い継がれてきている「蘇州夜曲」や1980年代後半にヒットした「無錫旅情」などに至るまで、旅情あふれる古鎮の魅力は人々の心を捉え、「蘇州夜曲」が定着させた「水の都」蘇州のイメージは、日本人にとって「永遠の憧れ」として、今も輝きを放ち続けています。

「人類史上最大」の土木事業

また、「大運河」の流域周辺には、悠久の中国史における重要な舞台となった土地も少なくありません。隋の煬帝が建設した大運河の拠点の一つとして、黄河中流域の華北と長江流域の江南地方を結ぶ交通の要衝として大いに繁栄した開封。長江下流南部・江南の政治経済の中心地として、戦国時代中期から約2400年の歴史を重ね、呉や明など10の王朝の都が置かれた南京。項羽と劉邦という中国古代史に名をとどめる2人の英雄を生み、漢民族の文化を残す徐州。「大運河」周辺をめぐる旅は、また、中国の悠久の歴史をめぐる旅でもあるのです。

「京杭大運河」は2014年6月、中国とカザフスタン、キルギスが協力して申請していた「シルクロード」などとともな世界文化遺産に登録されました。

中国七大古都の一つに数えられ、古代の庭園・樓閣・塔寺・石窟など、豊富で多彩な人文景観と独特の風情で知られる杭州では、現代中国の新たな芸術文化として注目を集めている風景も生まれています。中国映画界の巨匠・張芸謀(チャンイーモウ)が西湖岳湖(チャンイーモウ)が西湖岳湖区を舞台に、美しい山水を融合させて作り上げた大スペクタクル『印象西湖』は、江南地

方における四季折々の自然風景が演出に彩りを与え、一つとして同じものはないという幻想的な世界を創造するショーは、人々を惹き付けて止みません。人文景観や味わい深い風情、芸術文化と自然の融合するスペクタクルなど、流域周辺に息づく時空を超えた魅力は、観光資源としての「大運河」に無限の価値を与え続けています。



名画「清明上河図」に描かれた風物を再現し、宋代の風情を醸し出す「清明上河園」(開封)



運河沿いに古民家が並び夜景は、格別の情趣を感じさせられます(烏鎮)



水に囲まれた江南水郷では、船が日常的な移動手段です(錦溪古鎮)